



NAHA NURSING SCHOOL



◆学生会役員紹介◆



【会長：普天間 仁】：学生の代表として自覚を持ちながら、行事を盛り上げ、学生の意見をくみ取りながらより良い学校作りに努めます。

【副会長：高岩ほのか 加藤のい】：会長をサポートし、行事などを盛り上げ、楽しい学校生活を送れるようにします

【書記：比嘉紗利奈 又吉かれん 上地安貴斗】：楽しく充実した学校生活を送れるような雰囲気づくりを頑張るぞ

【会計：具志堅大吾 山田くれあ】：全学生が楽しく過ごせるような学校作りを頑張ります

【会計監査：大仲良龍 伊差川多恵】：居心地がよく、笑顔溢れる学校づくりができるよう、学生会で協力して頑張ります♡



那覇看護だより 第九号
発行年月日：令和三年十一月二日



令和3年度 オープンキャンパス

7月17日(土)にコロナ感染症対策のもと、参加者人数制限の下、オープンキャンパスを開催しました。今年は、小人数に分かれてグループで各ブースを回り体験型のオープンキャンパスを行うことができました。参加者からのアンケート結果では、『学校の雰囲気良かった。先生と学生が仲良し良かった。ブースの体験をできていい経験になった』などの評価を頂きました。放課後残ってブースの練習をした皆さん、企画・運営してくれた学生会の皆さん、お疲れ様でした。

10月9日(土)は、オンラインオープンキャンパスを行うことができました。学生会で作成した学校紹介の動画も大変好評でした。これからもコロナに負けず頑張っていきますよ！

芸術鑑賞「いのちの停車場」をみて

1年1組：小川希里奈

終末期医療に携わる現役医師・南杏子による同名小説を基に映画化したヒューマンドラマ。救命救急センターで働いていた女性医師(咲和子)が在宅医師として再出発する姿と彼女を取り巻く人間模様が描かれていました。この映画を見終わった後わが子を抱きしめたくなりました。もっと自分も身近にいる家族や子供、友人らを大切に毎日生きなければいけないという思いがこみ上げてきました。一番心に残っている言葉が、「私を抱きしめて」です。石田ゆり子演じる中川朋子が、がんを患い5年前に手術をしたが、転移が見つかり再発、幼馴染の咲和子を頼って「まほろば(診療所)」に来たのですが、その時お願いしたのが、抱きしめてほしいということでした。『人は命の期限を感じたら、抱きしめてほしいのだな、だれかに支えてもらいたい、大丈夫と言ってほしいのだな』と感じました。また、「命の終い方」という表現をしていて、人それぞれ命の終い方があり、医師や看護師は気持ちを尊重して、最期の願いをかなえてあげるところがとてもすごいことかなと思いました。命が終わってしまうことはとても悲しかったが、それ以上に今後の生き方について考えさせられ、何度も泣ける映画でした。・・・

那覇市医師会の先生方からいただいたチケットでシネマQのご協力の下、感染対策を行い、芸術鑑賞として「いのちの停車場」の鑑賞を行うことができました。

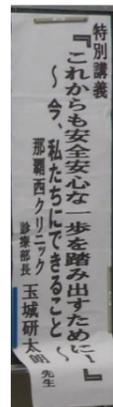


特別講義

「これからも安全・安心な一歩を踏み出すために！今私たちにできること」

3年1組：知名真利恵

玉城研太郎先生の特別講義を受け、改めてワクチン接種の大切さを実感しました。現在若い人のワクチン接種が少ないという現状を知り、「なぜだろう？」と疑問に感じました。副作用に対する恐怖心や、ワクチンの効果としての重症化を防ぐことができるという正しい知識不足によるものではないかと考えました。ワクチンは自分を守るだけでなく、大切な人を守ることができることを周囲に伝えていくべきだと思いました。今後、医療従事者として多くの人と関わる際には、どんな時でも感染しない、させないことを心にとめ、お互いの安全を守る行動をしていく必要があると思いました。そして、周りの人にも感染対策の大切さを知ってもらい、全ての人が感染しない、させないという行動ができればいいなと思いました。



発行：那覇市医師会那覇看護専門学校
発行責任者：学校長：久志 篤子
編集委員会：学生会：高岩ほのか
豊見城市字橋名289-23
電話：098-840-5577
発行年月日：令和3年11月2日



那覇北ロータリークラブ様よりタブレット10台寄贈 贈呈式にて

宮城 巧会長は「慢性的に人手不足の看護業界で、次世代を担う学生たちに私たちがどのように支援できるか考えた」と述べられ、新型コロナウイルスの影響でオンライン授業が増えている学生のために高機能タブレットの寄贈をして下さいました。学生の学びを止めないための機材として有効に活用させていただきます。感謝いたします。：久志

